

取中 取中の未来 通信

国語 数学 社会
理科 英語 音楽
美術 技 家 保 体

5 2期生(3年生)が卒業し、2学年だけで過ごす期間でした。学校が少し寂しくなる期間ですね。また、3学期末懇談の週でした。肌寒い日や雨の日に、来校いただきありがとうございました。

■3月5日、校内研究授業&校内研修実施!

今回の提案授業は、英語科担当の坂下先生と岩本先生にお願いし、TMの取組より『思考スキル・ツール』英語科より『ライップ(生成AI)』さらに『ロイロノート』と、3本柱で構成された授業を展開していただきました。教育委員会の指導主事をはじめ、近隣小・中学校の英語科の先生方、府内からも英語科の先生方が参観に来られていました。令和スタイルの新しい授業の形を提案していただきました。坂下先生・岩本先生ありがとうございました。また、2年2組のみなさん、ありがとうございました!



(↑授業風景)

<研究討議のまとめ>

1. 思考スキルを意識した授業づくりなど、教科として1年間の取組について

多種多様な思考ツールの活用 フィッシュボーン、ピラミッドチャート、Yチャート、バタフライチャート、クラゲチャート、ステップチャート、フローチャートなど、目的に応じたツールが多くの教科で実践されました。

視覚化による理解の促進 実験数値のグラフ化や、体育での動画撮影による動作比較、英語の動詞の使い分けの可視化など、情報を整理し視覚的に捉える工夫がなされました。

分類と比較スキルの育成 食品の種類、得意・不得意なこと、道徳におけるポジティブ・ネガティブな意見の分類など、**「比較・分類」**を意識した展開が多く見られました。

授業目標(めあて)への導入 毎時間の「めあて」や単元目標に思考スキルのワードを明示し、日常的に意識させる取り組みが行われました。

論理的な思考と構成 「なぜ？」を考えるための順序立て、根拠付け、推論などを通じて、文章の組み立てや構造的な理解に効果が得られました。

他者の視点と共有 他の教員の授業を参考に活用方法を検討したり、他人の意見を整理したりすることで、多角的な視点を養いました。

2. 教科として思考スキル・ツールを来年度、どのように活用していくか?

単元の特性に合わせた効果的活用 図形のまとめにYチャート、文章作成に思考ツールを用いるなど、「使える場面」を見極めて導入を継続します。

教科ごとのテーマ設定と洗練 教科内で重点的に取り組む思考スキルのテーマを決定し、授業の質をより深めていきます。

ICT 端末(ロイロノート等)との連携 ロイロノートでの記録、体育館での動画撮影と振り返りなど、ICTを活用した共有や蓄積をさらに進めます。

生徒主体の学びと共有 生徒同士で良い活用例を共有して良さを考えさせたり、**「他者が理解しやすいためのツール作成」**を意識させたりします。

評価への接続 十字チャートなどを用いた自己・他者分析の結果を、「思考・判断」の評価材料として活用していく方針です。

柔軟なアレンジ 既存の型に当てはめるだけでなく、生徒が使いやすいように変形・工夫して活用することを重視します。

<先生方のご感想のまとめ>

授業の良かったところ

☆生成AIやICTツールの効果的な活用と丁寧な授業設計が高く評価☆

- 生成AIを活用し、自分の英文と比較したり、間違いを指摘させたりする試みが素晴らしい!
- ロイロノートを用いた提出物の回収や、思考の可視化がスムーズに行われていた。
- 指示が的確かつ丁寧で、生徒が迷わずに取り組めてた。
- スモールステップの設計や、ワークシートと学習目標の連動が工夫されてた。
- 生徒がじっくり考える時間やペア・グループで協力する時間が十分に確保されていた。
- 1人で困っている生徒へのヒント出しや、自己採点・添削ツールとしてAIを活用すること。
- AIが提示する複数の回答案を比較させる活動。
- PMIシート、ピラミッドチャート、思考スキルを組み込んだワークシートの活用。
- 授業の全体像や流れを視覚的に提示し、見通しを持たせる工夫。
- ジグソー法やチームで1つのものを作り上げるタイプの授業。
- 保健体育など、他教科での動画活用とAI比較の導入。
- 早く終わった生徒に対して、追加の課題[特別な仕事]を与える仕組み。
- ジグソー学習により、全員が当事者意識を持って活動に取り組んでいた。
- 単に正解を出すだけでなく、「なぜそうだったか」を考えさせる仕組みがあった。
- 生成AIの精度がどの程度なのか、数学の計算など他教科でも有効に機能するのかという点。
- AIの英文と自分の英文を比較することで、単なる間違い探し以上の「理由」を考える深い学びに繋がる。
- ロイロノートでのリアルタイムな画面共有や、教員が間違いに即座に反応する難しさ。
- プレゼンテーションにおける「白」と「スライド」の使い分けや、班の構成の仕方。
- これだけの授業を行うための教員側の事前準備の量や、生徒側の予習(前時までの達成状況)をどう担保しているのかという疑問。
- グループワークと個人ワークのバランスをデジタルツール上でどう取るか。

とりいれてみたいこと

☆多くの参加者がAIを用いた個別学習の支援や思考ツールの活用を自身の授業に取り入れたいと考えている☆

気になったこと・質問・気づき

☆AIの精度や運用面、授業準備に関する具体的な課題や発見が挙げられている☆

<今年度最後の校内研修もとても『いい雰囲気』>

研究授業後、提案授業の振り返りと研究討議『思考スキルを意識した授業づくりなど、教科として1年間の取組について』と『教科として思考スキル・ツールを来年度、どのように活用していくか』の2点について教科で話し合いました。来年度は教科での取組を考えるうえでの交流をすることができました。来年度(TM3年め)に向けての方向性が見えた研修でもありました。改めまして教職員のみなさま、ありがとうございました。

